

5. シミュレーション教育について

森田修一（矯正）

矯正歯科におけるシュミレーター実習は、歯間分離、帯環調整（ピンチ法）、ダブルバックルチューブの溶接、上顎顎外固定装置の製作までを行っている。そのため、顎外固定装置のヘッドストラップを装着できるようマネキンに後頭部を新たにつけ、この実習では下顎が開閉運動と前方運動できるだけで十分なため咬合器の顎路の部分で側方運動を規制するような構造になっている。以前はこの実習を学生相互で行っていたため、喪失歯があっ

たりして帯環調整すらできない場合もあったが、シュミレーターの導入によりこれらの問題は解決できた。今後当科におけるシュミレーター実習は各種装置の製作実習が中心になるであろうが、そのためには各種不正咬合の模型の製作、チンキャップ製作実習のための咬合器へのオトガイの付与と口唇閉鎖している状態のマスクの考案、さらにはタイポドント実習ができるような咬合器の開発などが必要であり、現在検討を行っている。